

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年8月10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670102047
法人名	医療法人 春風会
事業所名	グループホーム はるかぜ
所在地	鹿児島市 西陵6丁目 21番 21号 (電話) 099-283-0991
自己評価作成日	平成26年7月20日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成26年8月5日(水)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

いつでもその人らしく個人の意志を尊重し、入居者中心の介護をしていく事に力を入れています。周辺にはスーパー、銀行、小・中学校、診療所、郵便局があるところに建てられたホームであり、利便性が高く、地域住民の通行も多い。その日の体調や、お天気をみながら、散歩に出かけたり、集会・行事・見学などに参加する機会を多く持ち、ホームだけど、地域の方と関わりながら生活ができる様に支援する事に力を入れています。身体的には、日頃の身体観察・入居者の異常の早期発見、病院・ご家族と連携し、且つ、設置されたホットラインで、早めの受診対応を行っています。日課もだいたいの流れはあるが、その日の入居者の体調をみながら、希望を聞いたりして変更をしたり、柔軟な対応で、自由で楽しい生活をしていただくように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○ホームは、閑静な住宅街にあり近所に大型スーパーや銀行、郵便局、バス停、コンビニなどもあり交通の利便性がよく、小・中学生や地域住民が行き交い利用者とも窓越しにふれ合う機会が日常の中にあり、近隣には公園もあって地域の人々と交流もある。

○運営推進会議には、隣接した大型スーパー店長、美容院、マッサージ師などの参加もあり、事業所の取り組みや具体的な改善内容などについて話し合ったり、地域の理解と支援を得るために認知症ケアの啓発にも努めている。

○法人は医療機関で、主治医として利用者、家族が希望する医療を提供している。また、専門医の受診は職員も家族とともに同行するなどして支援している。重度化した場合など契約時に説明し同意書を交わし段階に応じた事業所で得る最大限のケアを提供して随時意思確認しながら取り組んでいる。

○法人全体の研修会、外部研修で情報収集し、人材育成に取り組むとともにより良いケアの実現に向けて事例検討会なども定期的開催されている。また、他のグループホームと互いに運営推進会議に参加することで新しい発見やケアのヒントが得られるよう質の向上に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	ここの理念は、地域密着型サービスの意識を踏まえた理念であり、毎日朝申し送り後に出勤スタッフ全員で唱和している。	理念は、玄関や共有スペースなどに掲示され、開設当初からの地域密着型サービス事業所の役割を意識した理念になっており、職員と毎朝唱和し全員に浸透している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の公民館の総会や防災訓練には入居者とスタッフが一緒に参加していて、椅子やお茶のサービスを受けてい手、地域の役員さんたちと交流をしている。	ホームの窓越しに行き交う地域の方々と挨拶したり会話したり、散歩に出かけたりと日々の触れ合いを大切にしている。自治会総会への参加や行事への参加、ホームでのお茶会に福祉委員、児童委員の方が来られたり食材の差し入れなどがあり交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域の老人会の方が訪れて、レクリエーションを発表する場所を提供し、発表の後、一緒にお茶を飲む機会を設けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	介護保険の説明や利用料金のアップなどについても実際に運営推進会議などの時、公表し、意見を聞いて、サービスの向上に活かしている。	町内会長、民生委員2名、地域包括、家族数名、大型スーパーの店長、美容師、マッサージ師などのメンバーに加え、グループホーム同士で互いの推進会議に参加したりして意見交換し、出された意見はサービスの向上につなげ議事録は掲示して情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>生活保護の受給の入居者が現在1名入居されている。市の介護相談員の受け入れや、ケアプラン提出時にも市の担当者へ直接届けるようにし、情報の交換や、協力・信頼関係をもっている。</p>	<p>市担当者には日頃から面談や電話などで利用者の暮らしぶりなど報告し事業所の実情や取り組みなど伝えている。福祉事務所には、直接ケアプランなど持参した際に情報交換し、利用者の支援について協力関係を築いている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>帰宅願望の入居者も現在4名おられるが、開所当時から玄関の鍵はつけていない。自動ドアも電源を切って手動にしてあり、自由に開閉できるようにしている。</p>	<p>鍵をかけずに自由な暮らしを支援するため、職員の見守り体制を徹底し、チャイムに頼らず出ていく気配を職員が見落とさない見守りや声かけによる連携をしている。外出傾向の方には、さりげなく付き添いチームプレイでサポートするなど安全面にも配慮している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>月に1回ミーティングの中の職場内研修において、高齢者虐待についてスタッフ全員で学んでいる。言葉の虐待などにも気を使っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>月に1回の事業所ミーティングの中の職場内研修において、この制度について学ぶ機会を設けている。また、つい最近まで、日常生活支援事業を受けている入居者がおられた。成年後見制度についても職場内研修で学習する機会を設けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の時は2人対応で詳しく説明し、本人と家族代表と一緒に不安や疑問などをゆっくり時間をかけて説明をしている。解約時も同じく対応し、改訂等の際はその都度書類を郵送して同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議のご案内を、毎回家族便りでお知らせし、意見を聞いている。ご面会時も【何かありませんか?】と聞くようにしている。各居室の入り口に「ご家族との交換ノート」を設置している。	運営推進会議には、家族が4～5名参加され、また、年1回家族会を開催している。日頃面会に来られた家族一人ひとりに常に問いかけ、事業所に対する要望や意見など直接聞くようにしている。出された意見は、ミーティングなどで話し合い、サービスに反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の事業所ミーティングで職員の意見を聞き月1回の管理者会議にて職員の意見や提案があれば発表し、結果を翌日のミーティングで公表している。	ミーティングで職員の意見を聞く機会を作っている。また、出された意見は、毎月開かれる管理者会議で報告し、運営に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力を評価し、代表者に伝え、各自が向上心を持って働けるよう環境・条件の整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>認知症ケアは専門性がある事を周知していただく為、法人内外の研修を受けられるように勤務体制の確保をしている。ケアについては、職員へ随時指導を行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>近隣にある同系列のグループホームや老人保健施設での研修会にスタッフ間で参加しており、また楽しいレクリエーションを提供しに出向いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まず入居申し込みがあった時点で見学に案内したり、こちらから出向いて早めに本人と面談したりして入居に至るまでの安心を確保している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に関する相談の電話があると、まず見学に来られる様に案内し、実際にここでの生活を見ていただくようにする。そして、ご本人様と面接を必ず行い、ご本人・ご家族の不安や要望に答え、安心して入居されるように説明をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用を開始する段階での相談時は本人・ご家族の思い、状況などを確認した上で支援に向けた提案や相談を聞いた上で必要なサービスに繋げるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方達を人生の先輩であるという考えを職員全員で共有し、入居者の方達にさまざまな事を教えていただく場面の提供や声掛けを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ここでのケアは、入居者・ご家族・職員と3本柱であるという気持ちを常にもち、ケアを行うようにしている。本人だけでなく家族の気持ちにも寄り添うようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅での生活中的近隣の友人などが面会に来られた時は、居室でゆっくり話ができるようお茶・お菓子を提供し、いつでもおいでになるように声掛けを行っている。	在宅で親交のあった方や着付けの生徒さん方が定期的に遊びに来られるので、温かく迎え本人とゆっくり過ごせるよう配慮している。また、家族と地域に外出される方もありこれまでの関係性を大切に交流の継続を働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の情報を職員が常に把握し、定期的に席替えを行っている。職員も交えて誰とでも気軽に会話できるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族からの相談を受けたり、行き先の施設や病院を訪問して、関係性を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に声掛けを行い、さりげない会話の中でも本人の思いを聞きのがすことのないようにしている。困難な場合は家族に連絡し確認している。	本人がどうしたいのか、どのように暮らしたいのかを理解するために本人の言葉やしぐさなど受け止め、家族から情報収集し、職員全員でアセスメントして情報を共有し、本人にとって最善の策を検討しながら支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、関係者から生活歴・生活環境等の話を聞くように努めている。自宅から馴染みの物を持参していただき、安心して生活していただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	細かい情報を日勤帯・夜間帯が申し送りや連絡帳で把握している。また、家族の面会時等でも確認を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プラン作成、見直し時には必ずカンファレンスを行っている。これまでの振り返りを忘れずに本人、家族、関係者や職員の意見も聞いて介護計画を立てている。	可能なかぎり家族も会議に参加していただいて話し合い、意見交換して利用者主体の暮らしを反映した介護計画を作成している。また、定期的なモニタリングのほか、計画の見直しも随時おこなっており、定期カンファレンスをおこなっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子で変化があった事等は細かく記録し、個別に記録することでケアの見直し等に活かしている。入居者の細かい変化や、心理も見逃さないようにして、連絡帳に記入し全スタッフが周知している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>利用者や家族の希望、状況に応じて、訪問マッサージ・フットマッサージ・居宅療養管理指導、訪問歯科など柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>月に2回の運営推進会議にて町内会長、民生委員の方と意見交換をしている中で、地域のボランティアの方が踊りや歌を披露して下さったり、地域のお祭りには座席を用意して下さったりしている。また、無断外出等が発生した場合、隣のスーパーや交番に協力を要請し、安全に暮らせるよう地域の理解と協働している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人及び家族が希望するかかりつけ医に受診している。家族同伴が難しい場合は、職員が付き添い、結果はすぐ家族へ連絡している。</p>	<p>本人や家族が希望するかかりつけ医になっており、管理者が必ず同行し家族も同席してもらう。他科受診は、原則家族に依頼するが必要な方には、事業所が支援している。同法人の老健と内線で連絡が取れる仕組みがあり、看護師との連携が図られている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>母体と同じ隣接する老健施設と内線で連絡をとれるようになっており、緊急時にはすぐかけつけられる体制が整っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院された場合、すぐに本人に関係する情報を入院先に提供している。入院後は、面会に行き、家族とも情報交換をしながら、速やかに退院できるように努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>事業所はるかぜにて出来る事、出来ない事を家族に説明している。利用者が重度化した場合、かかりつけ医と相談した上で出来るところまではケアをしているが、終末期のケアについては、まだ準備中である。</p>	<p>契約時に、重度化した場合などについて事業所が対応し得る最大限のケアについて説明し同意書を取っている。終末期については体制整備が急がれており、準備段階。急変や重度化し医療ニーズが高まった場合などは、主治医や法人の看護師などと連携体制もある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>職場内研修の参加者全員に急変時の初期対応の訓練を行っている。事故発生時の備えは一応緊急連絡網が出来ている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施し対応している（火災・地震）また、運営推進会議時に地域の方々へ協力を依頼している。	昼夜問わず避難訓練を実施し、近隣のグループホームや老健職員の応援や隣接したスーパー店長など地域の協力体制がある。また、西陵地域独自の防災訓練にも毎年参加している。利用者には、防災頭巾、非常用持ち出し袋、備蓄も確保している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	系列病院での接遇セミナーへ参加し、各自のスキルアップに努めている。また言葉使いなどに、気を配り、指示や命令調にならないよう常に職員同士注意しあっている。	管理者や職員は、接遇やマナーの勉強会などで研鑽を積むとともに、言葉使いに気をつけ尊厳を持って人格に配慮しながらケアに取り組むようにしている。また、声かけは苗字で呼びかけ、排泄の声かけは個別に合言葉を決めてプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けは常に同意を得られるよう「いかがですか」、「しませんか」など声掛けにも注意している（選択肢を与えている）		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別性を大切にし、本人が可能なレクリエーションに声掛けし、参加していただいている。本人の意見を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	洋服やパジャマなどの更衣時に本人好きな物を選べる様衣類をハンガーに掛けたり、タンス整理をし、わかりやすい様に工夫している。また、2か月に1回訪問カットを行っているが、月1回のカットを希望される入居者もおられる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態は誤嚥も含め1人1人異なるが、好みも聞き食欲が、増すように彩り等を考慮し、おなじテーブルで職員も会話をしながらたべている。、できる人は皮むき・盛りつけ・下膳・食器洗いもされている。	献立は1週間ごとに決め、内容については、法人の管理栄養士が指導やアドバイスをしている。一部介助が必要な利用者もあるが、職員も一緒に食事を楽しんでいる。食器洗い、皮むき、盛りつけなど能力を勘案してお手伝いをもらっている。クリスマスはバイキング料理を家族も一緒に楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は記録し、口頭で申し送る。飲水拒否がある場合は、それに代わる飲み物を提供している。栄養バランスやカロリーについては、年に1回同系列の病院の管理栄養士に提出して評価してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後職員が全入居者を洗面所に案内し、一人一人に合わせて口腔ケアを支援している。週1回義歯はポリデント消毒をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握して、トイレで排泄していただく為に時間トイレ案内をしている。失禁を少なくして、気持ちよい排泄につなげている。入居前、在宅でリハビリパンツ使用者も入居後はボクサーパンツを購入していただきして経費節減に努めている。	排泄のリズムを整えなるべくトイレで排泄できるようケアしている。本人のプライドを傷つけないよう声かけし誘導している。また、転倒予防のためセンサーや鈴、マラカスなど活用して排泄の自立支援をおこなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は繊維の多い献立作りに留意し、便秘の予防に向け補水・運動に努めている。排便の確認を行い、下剤の与薬・調整も申し送っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	毎日入浴日となっているが、本人の希望があったら、随時入浴できる体制にある。温泉である為、喜んで楽しく入浴されている。	入浴の日は決めず本人の体調に合わせて温泉でゆっくりと入浴ができるよう介助している。また、同性介助し本人の安心感を得ている場合もある。排便コントロール中の方には、時間を決めずに対応し清潔が保持できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	軽体操やレクリエーションで日中の活動を促し、生活のリズムを整える様にしている。その日の体調や表情を考慮して、昼食後、昼寝のための入床案内を行っている入居者もおられる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の薬説明書はいつでも見れる所の壁に貼り、説明書つづりのファイルにもつづっている。全介助で与薬し、与薬後飲みこまれたか？までを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者のできる力を職員は把握していて、できる生活レクリエーションはしていただいている。できた後は必ず評価し、感謝や、お礼の言葉を伝えるようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や本人の希望に応じてスーパーへ買い物に行ったり、近くの公園に散歩に行ったり、ドライブに行ったりしている。	近所の公園やホーム近隣を散歩したり、受診目的にドライブがてら日常的に外出している。また、職員とスーパーに買い物に行ったり家族と自宅に帰宅する利用者もいる。2階利用者も喫茶店のお茶会日は1階玄関フロアで1階利用者や職員、地域の方々と交流している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の大切さを理解し、支払いの心配をされる入居者には家族からお金を預かり、金庫の中に保管してある事を伝えている。必要であれば、金庫の所まで一緒に行く対応を統一している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族から電話は本人につなぎ、交流をもっといただくように支援し、年賀状等は手作りのを発送している。家族にはいつでも電話で連絡が取れる状況にある。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用の空間（台所・居間）は広く常に食器を洗う音、ご飯の炊ける匂い、昔なじみの音楽、生活感が身体で感じられるような家庭的な雰囲気である。</p>	<p>玄関やホールには、3、4人掛けソファが複数設置しており、利用者が自由に好きな場所でリラックスできるよう配慮している。季節の生花が活けてあり、季節感が得られるよう飾りつけがしてあり、対面式のキッチンでは利用者が食材の下ごしらえをする様子などあり、家庭的な居心地よい共有スペースになっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用空間には、3～5人掛けのソファが各3台、一人掛け椅子などが置いてあり、自由に気の合った入居者同士が過ごせるような工夫をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時、ご家族に居室の使い方やレイアウトはご自由に本人と話し合っ てして下さいと伝え、そして、ソ ファー、タンス等は本人好みに置い てあり、居心地良く過ごせる様に配 慮している。	広々とした居室には、本人の能力に 合わせたベットが設置してあり、洗 面台、整理タンスも配置され本人の 使い馴染んだ家具や調度品、家族の 写真、季節の寝具もあり本人が快く リラックスできるような工夫がしてあ る。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境 づくり 建物内部は一人ひとりの「できるこ と」や「わかること」を活かして、安全 かつできるだけ自立した生活が送れるよ うに工夫している	トイレの位置も分かりやすく表 示し、廊下すべて手すりが設置 してあり、安全に移動が出来る ようにしている。自立支援を主 にできないことはさりげなくお 手伝いをしてプライドを傷つけ ないようにケアをしている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9,10,19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない